

## 狩猟獣モニタリングに係るアンケート調査結果

### 1. アンケートの概要

#### < アンケートの趣旨 >

- ・ 近年、全国的に狩猟数の減少がみられる大型獣類（シカ、イノシシ、クマ）以外の獣類について、狩猟者による捕獲の意思や出猟状況等について把握し、狩猟数減少との関係性を検討するための材料とする。
- ・ 大型獣類以外の獣類とはノウサギ（ユキウサギを含む。以下同じ）、テン、イタチ、アナグマ、キツネ、タヌキ、シマリスの計7種類

#### < 質問内容 >

- ・ 回答者の属性（年齢構成、主な狩猟対象、狩猟免許の種類、狩猟年数等）
- ・ 狩猟対象としての魅力と出猟状況
- ・ 捕獲数の増減
- ・ 主な猟場での大型獣類以外の獣類の生息数の増減

#### < 対象 >

- ・ 全都道府県（沖縄県を除く）の猟友会支部（1,240 支部）

#### < アンケート依頼・回収方法 >

- ・ 環境省（請負者：自然環境研究センター）より、（一社）大日本猟友会に対し協力を依頼。これを受けて、（一社）大日本猟友会より各都道府県猟友会にアンケートへの協力を依頼。
- ・ 各支部に各種1枚のアンケートを発送（1,240 支部×7種=86,80枚）。
- ・ アンケートの送付及び回収方法は郵送とした。

#### < 実施期間 >

- ・ 平成25年9月12日（木）から10月4日（金）までを実施期間に設定したが、回答状況等により、10月31日まで延長した。

#### < 結果のフィードバック >

- ・ アンケート結果をとりまとめた上で、（一社）大日本猟友会のHP等により結果をフィードバックする予定。
- ・ また、鳥獣保護管理上の参考資料として、各都道府県への情報提供も予定。

## &lt; アンケートの回収状況 &gt;

	発送数(通)	回収数(通)	回収率(%)	対象種の分布
ノウサギ	1,240	762	61	全国(沖縄を除く)
テン	1,240	672	54	全国(沖縄を除く)
イタチ	1,240	675	54	全国(沖縄を除く)
アナグマ	1,240	701	57	本州・四国・九州
キツネ	1,240	703	57	全国(沖縄を除く)
タヌキ	1,240	726	59	全国(沖縄を除く)
シマリス	1,240	634	51	北海道
計	8,680	4,873	56.1	

注:1支部で数通の回答を含む

## &lt; アンケートの集計・分析 &gt;

## アンケート対象種の集計方法について

- 対象種が本来生息していない都道府県からの情報は、種の識別が正確でない可能性があることから、集計から除外した。そのため、北海道からのアナグマに関する情報と、本州からのシマリスに関する情報を除外し、再度、集計・分析をおこなった。

## 集計・分析項目の変更

- 第2回検討会での議論を踏まえ、アンケート結果の評価が困難と考えられる以下の項目を除外した。
  - 「捕獲状況」に関する項目  
(設問6:「実際に出猟した際、免許取得当時より多く獲れていますか」)
  - 「生息状況」に関する項目および「都道府県別の生息動向の分布図」  
(設問2:「狩猟免許取得当時と比べて、主な猟場での対象種の生息数は近年どうなったとおもいますか」)

## 新たな集計結果の提示

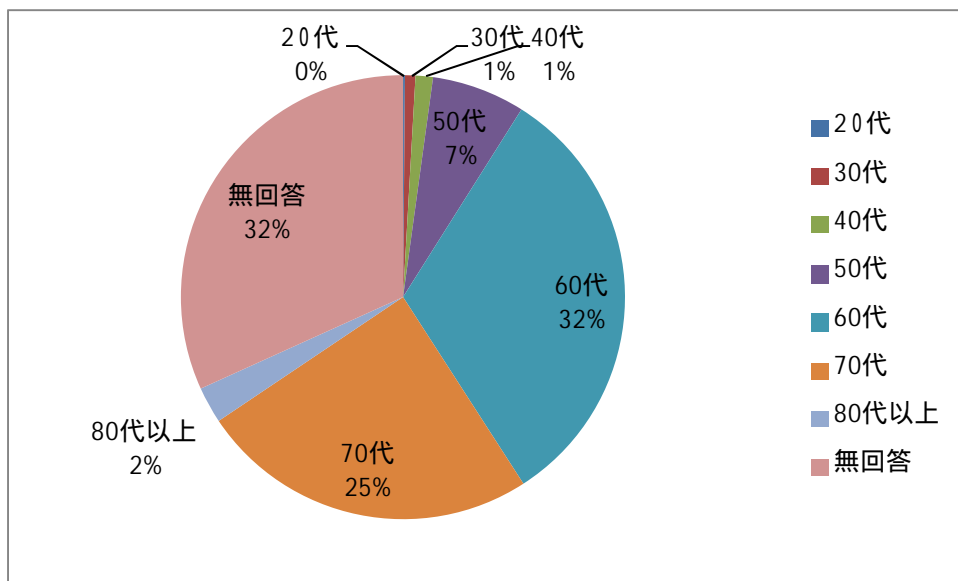
- 第2回検討会では集計途中であった項目について、今回新たに提示した。
  - 「昨年度の捕獲実績」

2. 回答者の属性

回答者の年齢構成

アンケート対象種(7種)における年代別回答件数(回答者の重複有り)

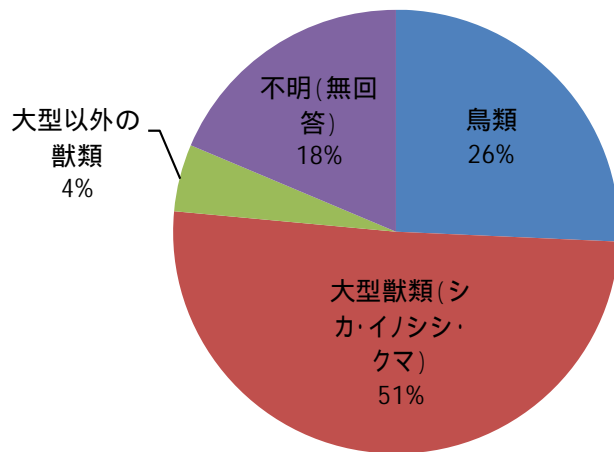
年代	設問: [ご本人]についてお聞きます							
	回答件数							
	ノウサギ	テン	イタチ	アナグマ	キツネ	タヌキ	シマリス	合計
20代	0	1	2	1	1	1	0	6
30代	8	3	5	6	5	5	0	32
40代	8	12	7	7	7	11	2	54
50代	71	37	42	36	55	43	3	287
60代	313	211	189	195	199	230	12	1,349
70代	238	157	156	142	162	181	10	1,045
80代以上	37	14	14	15	13	18	1	112
無回答	87	237	260	246	261	237	14	1,343
総計	762	672	675	648	703	726	42	4,228



回答者の年齢構成(回答者の重複有り)

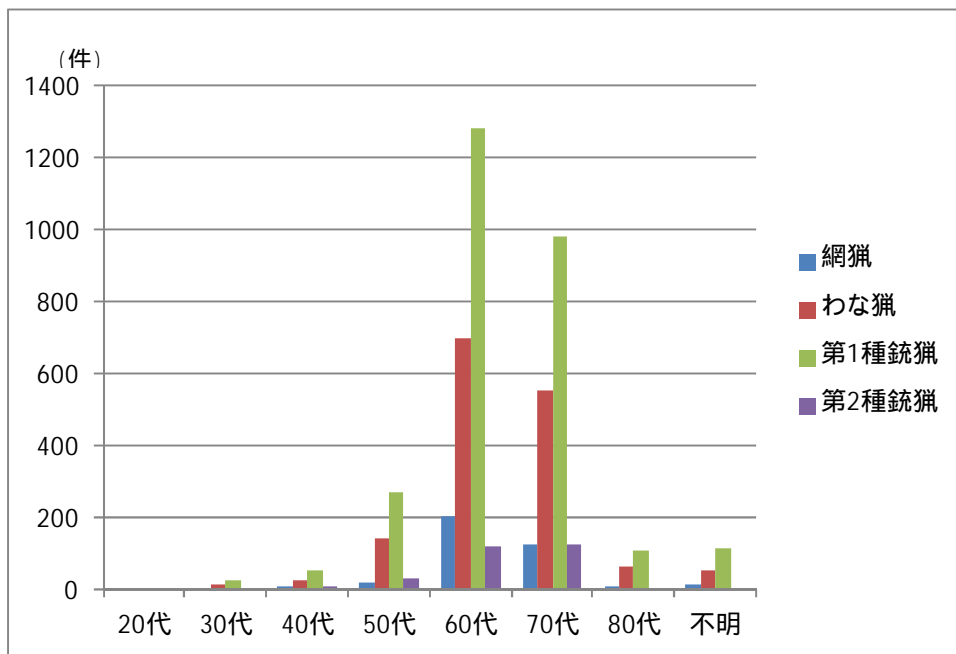
### 主な狩猟対象

主な狩猟対象としているものの回答件数(複数回答あり)



主な狩猟対象	件数
鳥類	1,087
大型獣類(シカ・イノシシ・クマ)	2,145
大型以外の獣類	206
不明(無回答)	789
計	4,227

### 年代別の狩猟免許の種類

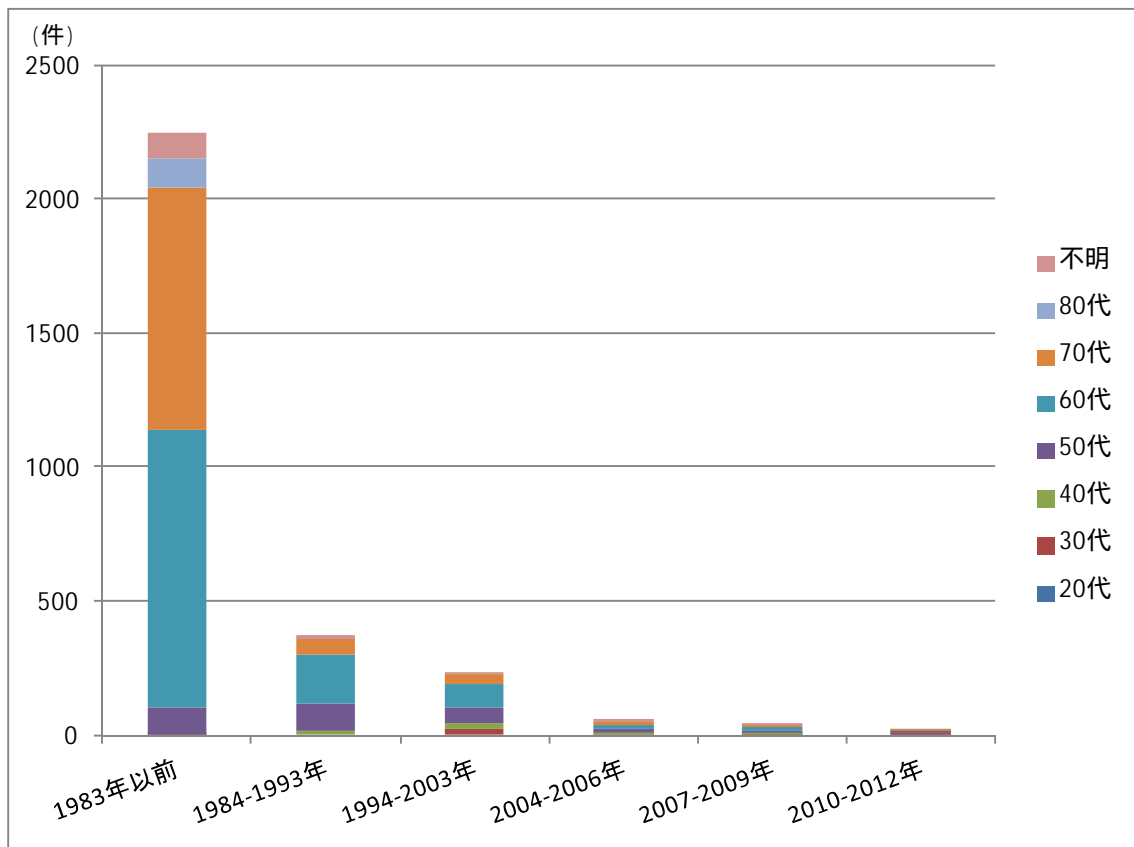


所有する狩猟免許の種類(年代別:複数回答あり)

狩猟免許を取得した年度

狩猟免許を取得した時期別の回答件数(複数の免許を所有する場合、最も古い時期を抽出)

年代	1983年 以前	1984- 1993年	1994- 2003年	2004- 2006年	2007- 2009年	2010- 2012年	合計
件数	2,248	370	234	54	39	19	2,964
割合(%)	76	12	8	2	1	1	100



狩猟免許を取得した時期(複数の免許を所有する場合、最も古い時期を抽出)

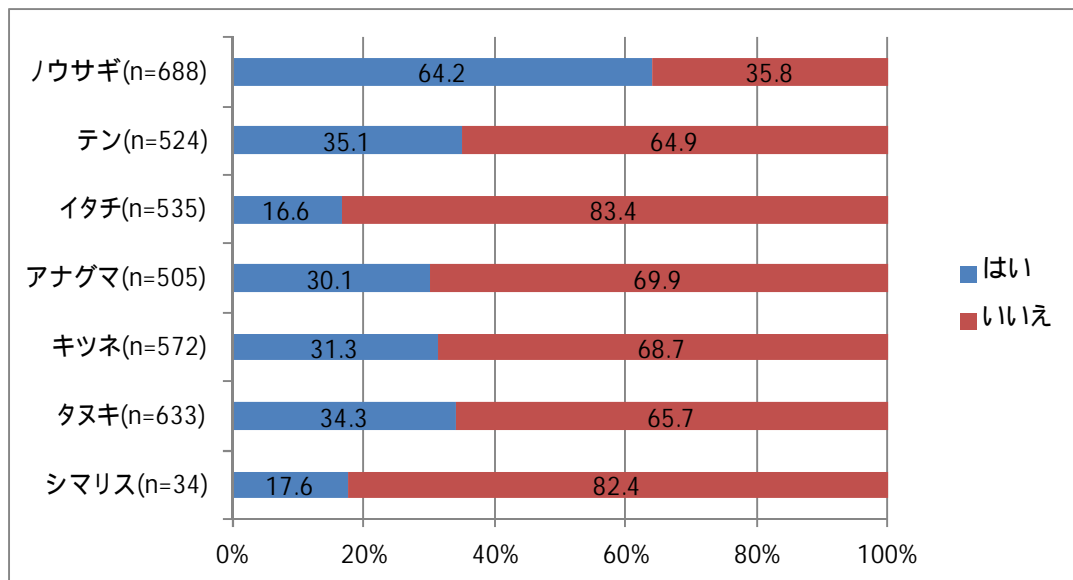
## 3. 狩猟者の意向

## 狩猟対象としての魅力(免許取得当時と現在の比較)

狩猟者の意向に関する回答件数

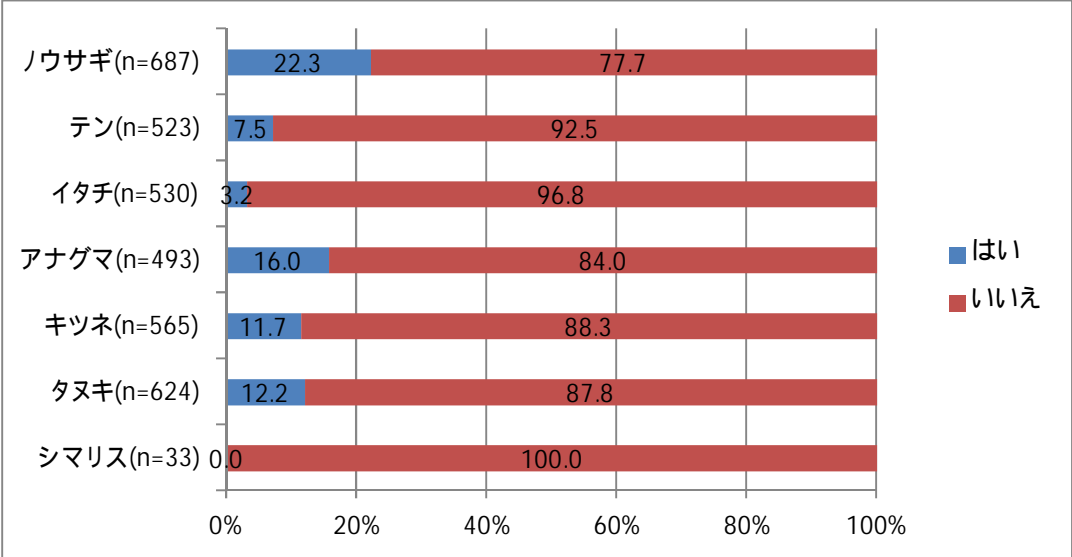
獣類	設問3		設問4										
	狩猟免許取得当時は、今より獲りたいと思っていましたか		現在、狩猟対象として積極的に獲りたいですか		積極的に獲りたい理由 (複数回答可)				積極的に獲りたくない理由 (複数回答可)				
	はい	いいえ	はい	いいえ	肉の利用	毛皮の利用	楽しい	被害軽減	肉の利用がない	毛皮の利用がない	楽しくない	その他	
ノウサギ	442	246	153	534	74	2	76	91	242	173	135	177	
テン	184	340	39	484	3	31	12	18	135	246	147	114	
イタチ	89	446	17	513	2	6	6	16	144	264	213	101	
アナグマ	152	353	79	414	42	10	7	48	172	175	165	93	
キツネ	179	393	66	499	5	16	7	50	154	276	171	109	
タヌキ	217	416	76	548	13	15	19	68	224	329	198	100	
シマリス	6	28	0	33	0	0	0	1	6	14	13	7	

設問3： 狩猟免許取得当時は、今よりも獲りたいと思っていましたか



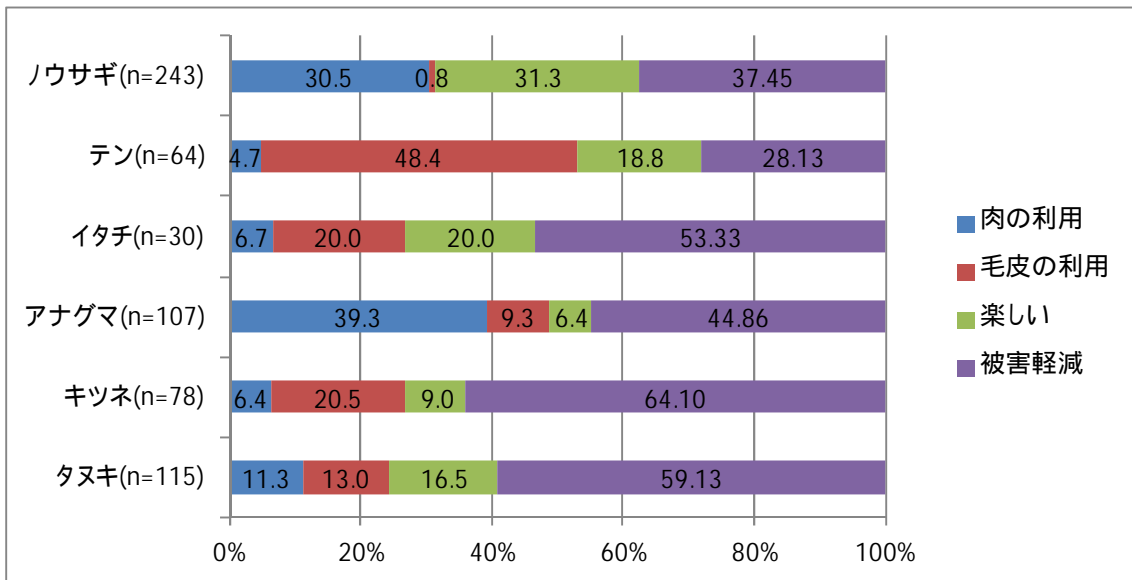
全回答者の集計(数字は%)

設問 4 : 現在、狩猟対象として積極的に獲りたいですか

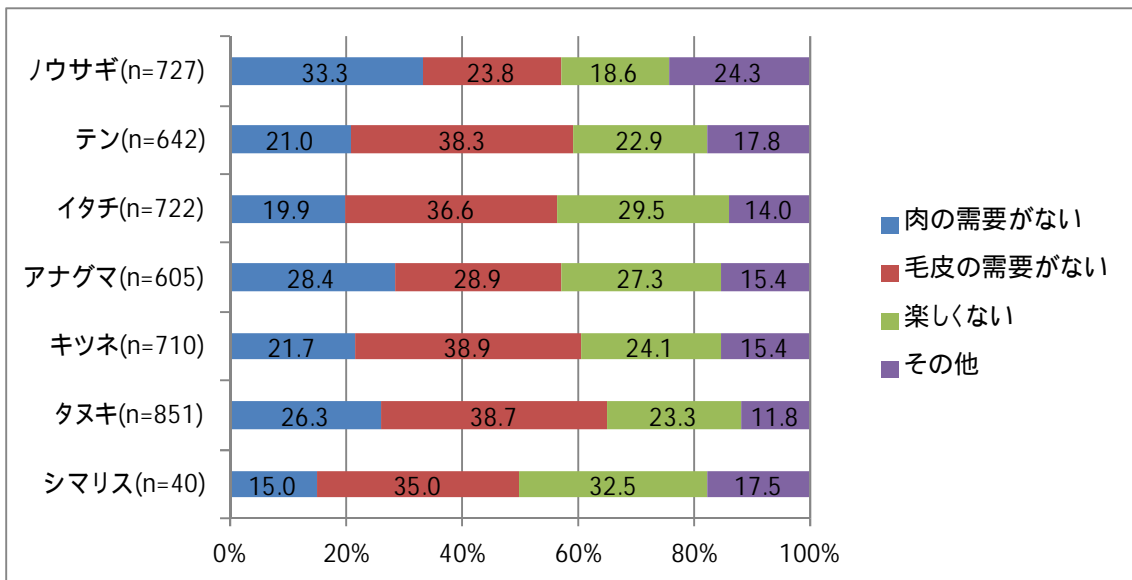


全回答者の集計(数字は%)

【積極的に獲りたい】理由（全回答：複数回答あり）

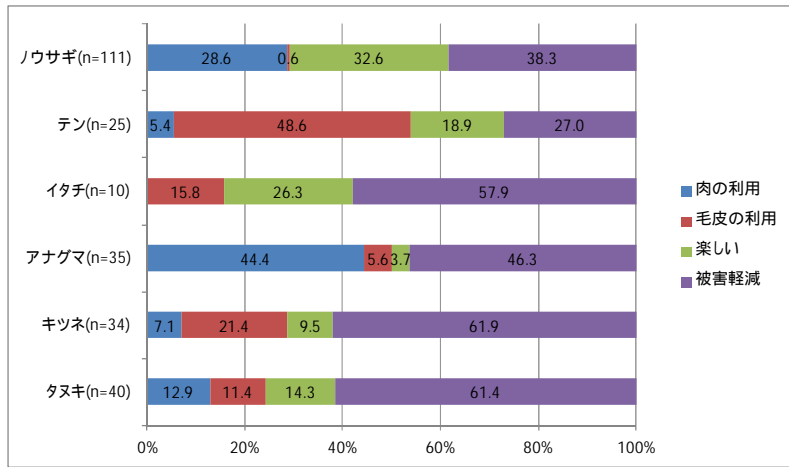


【積極的には獲りたくない】理由（全回答：複数回答あり）

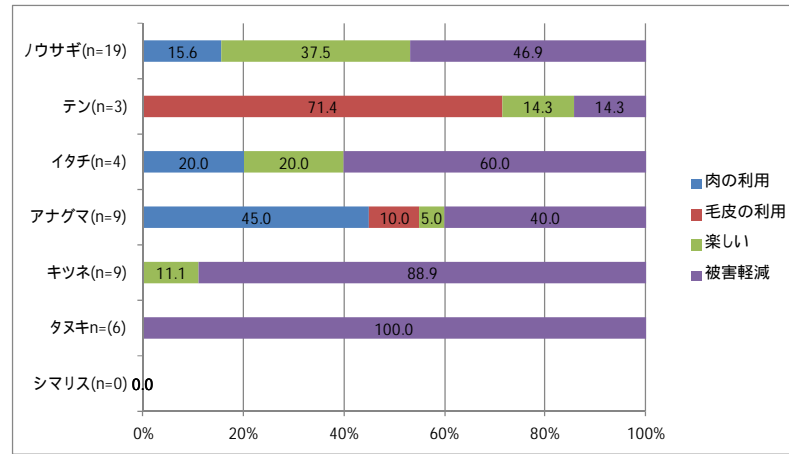




現在、狩猟対象として積極的に獲りたい理由(回答者の狩猟免許取得時期による比較)

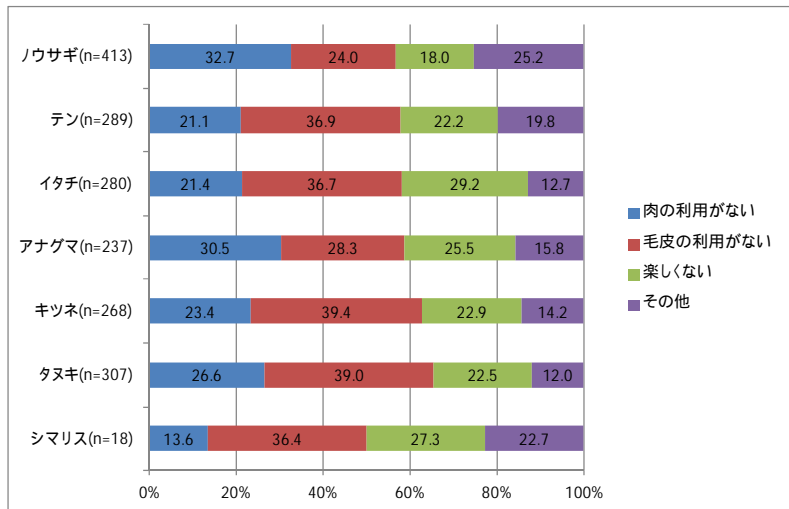


1983年以前 免許取得者(数字は%)

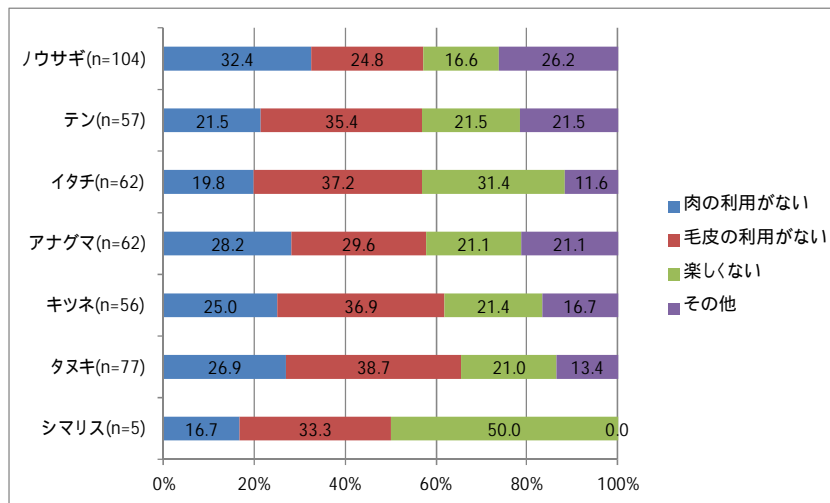


2007年以降免許取得者(数字は%)

現在、狩猟対象として積極的に獲りたいと思わない理由(回答者の狩猟免許取得時期による比較)

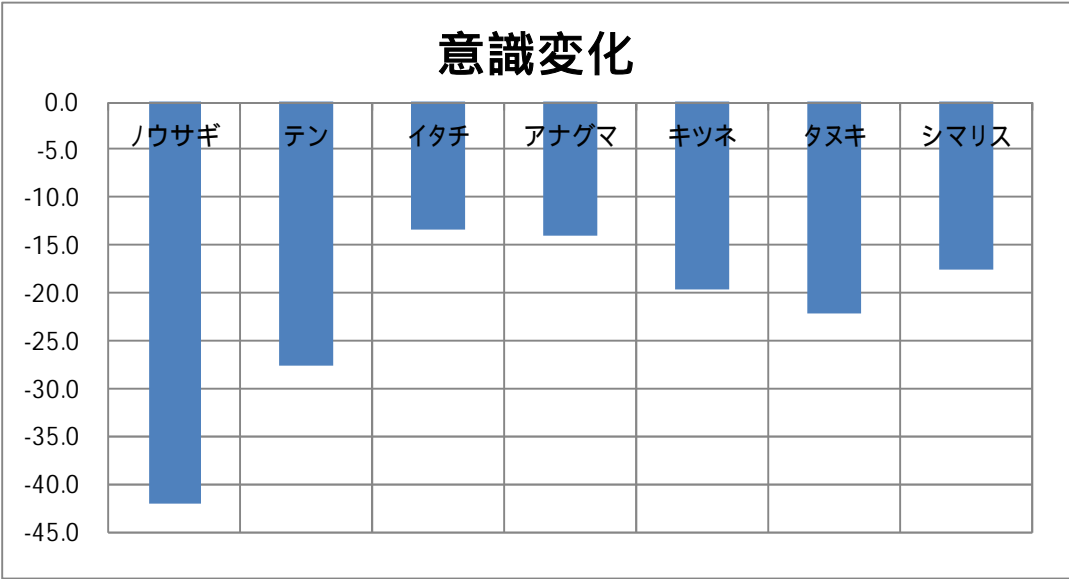


1983年以前 免許取得者(数字は%)



2007年以降免許取得者(数字は%)

狩猟者の意識変化(免許取得当時と現在の比較)



対象種に対する狩猟魅力の変化(数字はポイント)

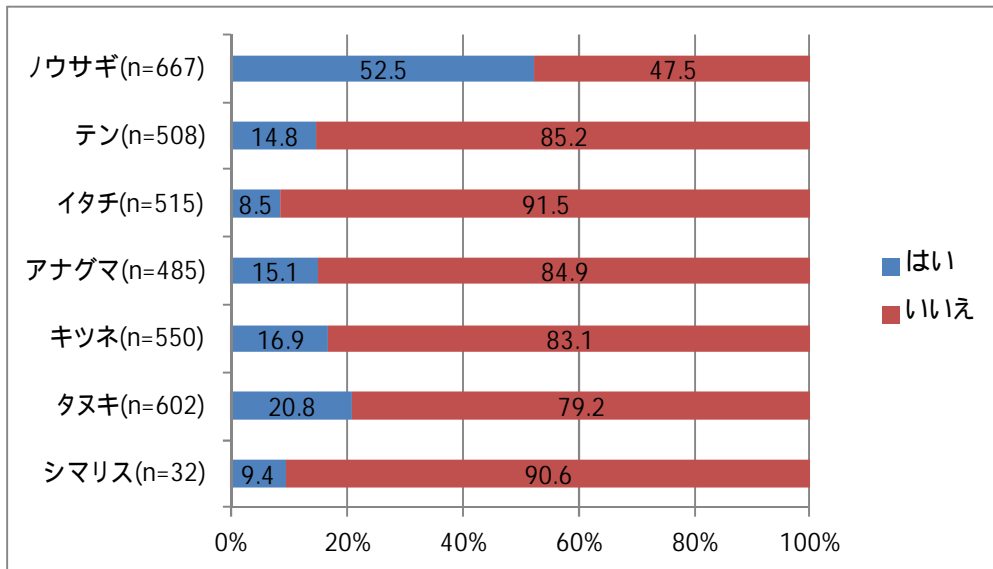
## 4. 狩猟者の行動

## 出猟の状況

## 出猟に関する回答件数

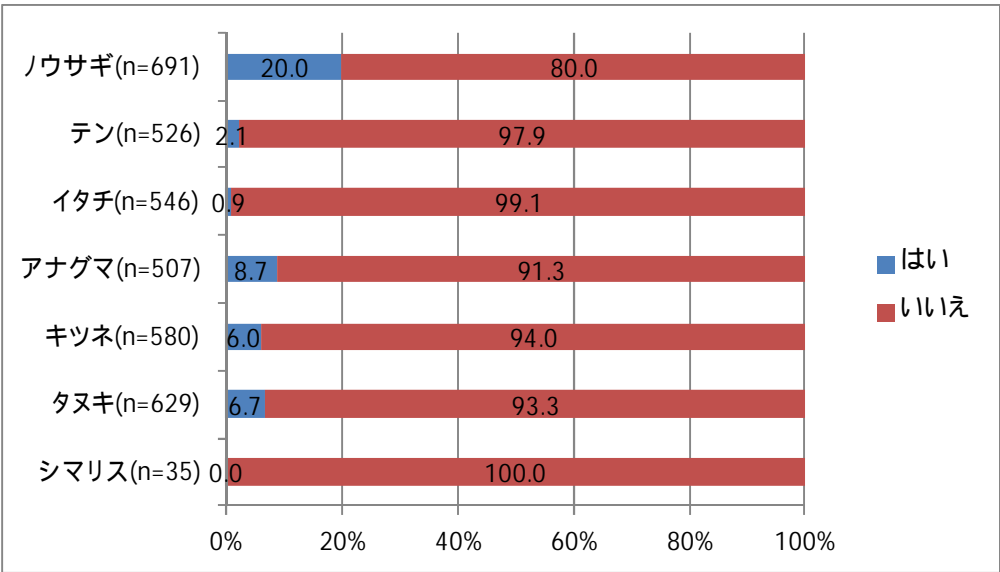
獣類	設問3		設問5					現在、出猟しない理由を選択して下さい				
	当時は今よりも対象種目的で出猟していましたか		実際に、現在も対象種目的で出猟していますか		「積極的には獲りたくないが、出猟することがある」という方は、その理由を選択下さい							
	はい	いいえ	はい	いいえ	依頼	誘い	その他	時間がない	体力が不安	事故が怖い	獲物がいない	その他
ノウサギ	350	317	138	553	42	48	46	62	38	23	259	194
テン	75	433	11	515	27	7	15	69	32	15	182	195
イタチ	44	471	5	541	28	3	11	74	20	20	156	213
アナグマ	73	412	44	463	74	6	13	93	34	10	134	172
キツネ	93	457	35	545	44	9	24	92	41	23	141	215
タヌキ	125	477	42	587	94	10	20	111	42	20	87	245
シマリス	3	29	0	35	0	0	2	4	0	0	6	17

設問3：狩猟免許取得当時は今よりも対象種を獲る目的で出猟していましたか



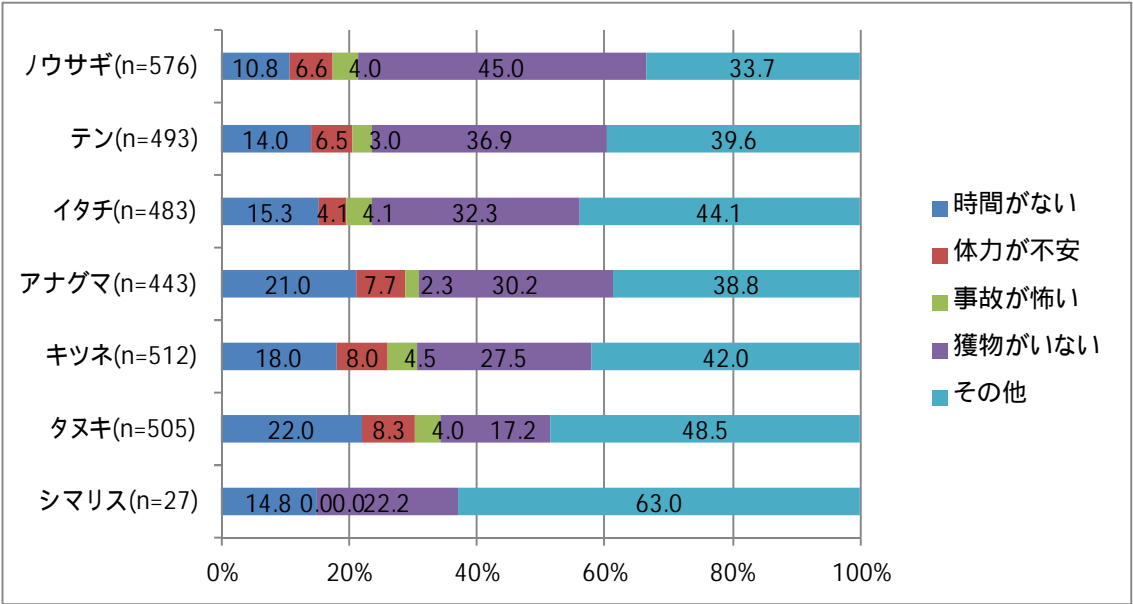
全回答者の集計 (数字は%)

設問 5 : 現在、対象種を獲る目的で出猟していますか



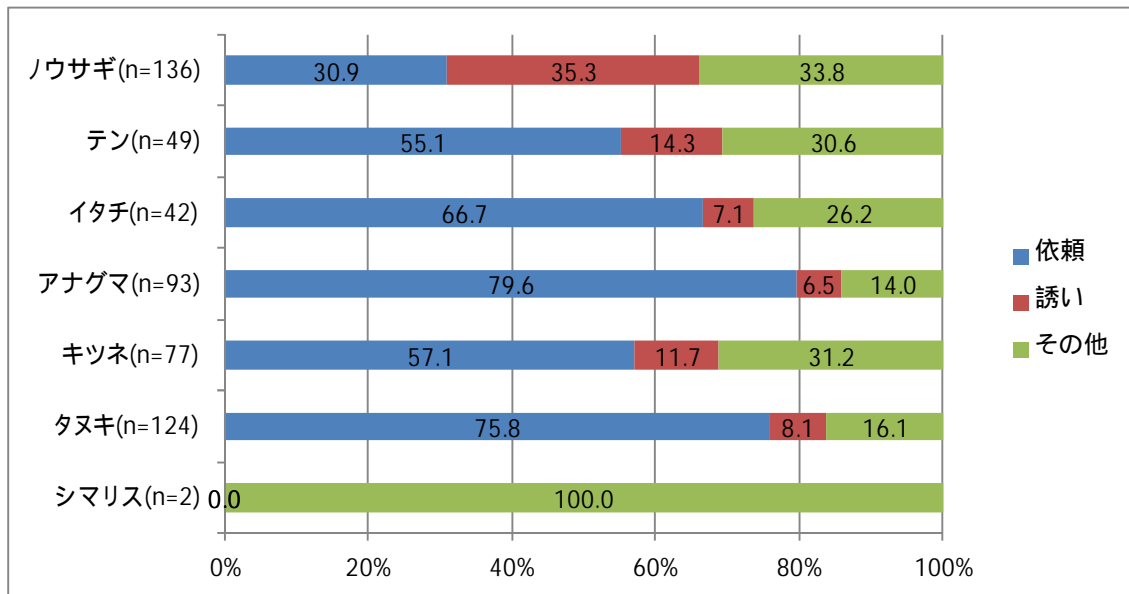
全回答者の集計 (数字は%)

【いいえ】の理由



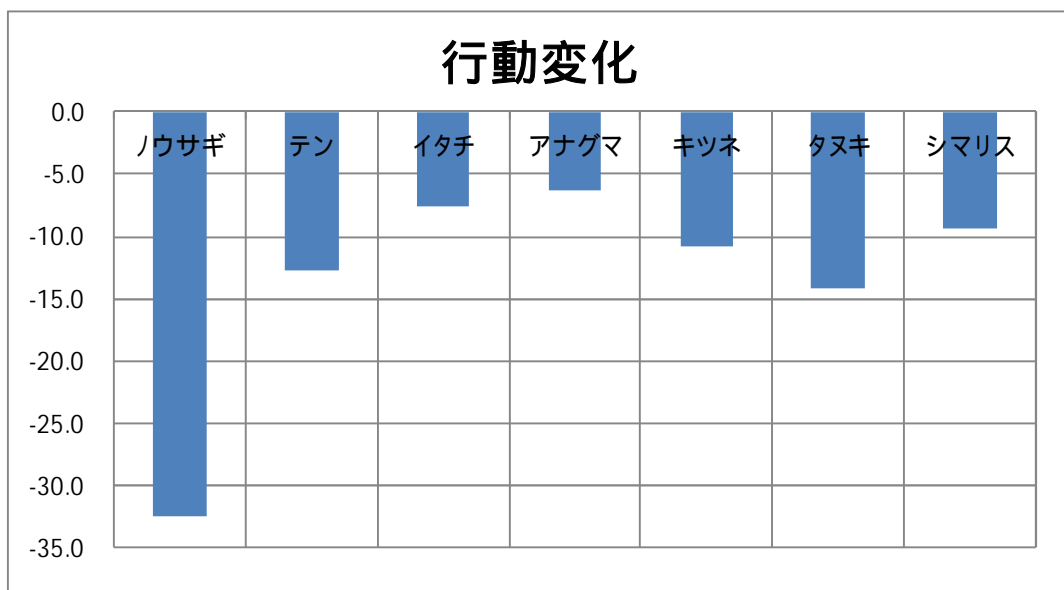
全回答者の集計 (数字は%)

【積極的には獲りたくないが、出猟することがある】の理由



全回答者の集計(数字は%)

狩猟者の行動変化(免許取得当時と現在の比較)



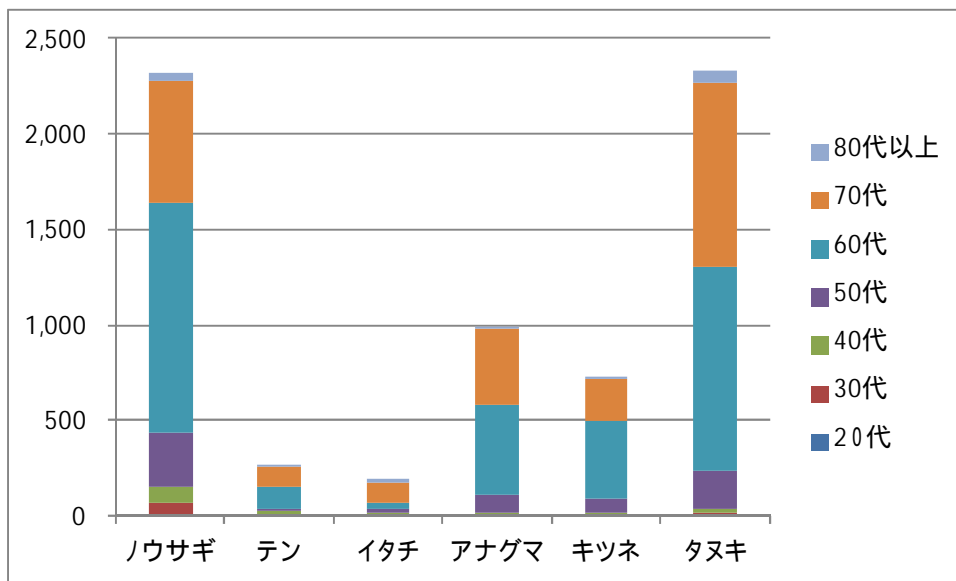
対象種を目的とした出猟状況の変化(数字はポイント)

## 5. 昨年度の捕獲状況

## 捕獲に関する回答

回答者による平成 24 年度登録狩猟頭数(複数回答あり)

年代	設問:昨年度(平成24年度)の狩猟期間に、ご自身が登録狩猟(有害鳥獣を除く)で獲った数を、狩猟獣ごとにご記入下さい。								
	回答件数								
	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	無回答	総計
ノウサギ	0	68	85	278	1,213	633	45	41	2,363
テン	4	0	21	16	111	101	8	31	292
イタチ	0	1	16	15	39	104	14	14	203
アナグマ	0	9	9	94	473	392	16	51	1,044
キツネ	0	8	10	73	408	220	6	29	754
タヌキ	8	11	17	199	1,064	972	60	65	2,396
シマリス	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	12	97	158	675	3,308	2,422	149	231	7,052



回答者による平成 24 年度の登録狩猟頭(年代別の割合)

## 7. まとめ

### 1. 本アンケート調査結果の整理

#### ■ 回答者の属性について

- ・ 回答者は 60 代、70 代が過半数を占めていた。
- ・ 主な狩猟対象は、大型獣類が半数を占めており、大型獣類以外の獣類は 1 割に満たなかった。
- ・ 狩猟免許は、わな猟と第 1 種銃猟が大部分であり、60 代、70 代が中心であった。
- ・ 狩猟を始めた時期は、回答者の大多数が 1983 年以前であったことから、以後の設問にある「狩猟免許取得当時」は、1983 年以前の状況を強く反映すると考えられる。

#### ■ 狩猟者の意向について

- ・ 狩猟者の意識変化では、免許取得当時と現在を比較すると、対象種全てにおいて、狩猟対象としての魅力が減少しており、特にノウサギに対する狩猟対象として魅力が減少幅が大きい。
- ・ 回答者の属性が示すとおり、「狩猟免許取得当時」の意向は、回答者数が過半数を超える 1983 年以前の状況を強く反映していると考えられる。
- ・ 「積極的に獲りたい理由」では、キツネとタヌキにおいて、1983 年以前の免許取得者と最近（2007 年以降）の免許取得者で違いが見られ、最近の免許取得者では「被害軽減のため」とする理由が多くを占めた。

「2007 年以降免許取得者」は、2007 年の鳥獣保護法改正（網猟とわな猟が区分された）に伴い、免許取得者の理由が変化していると考えて設定した。

#### ■ 狩猟者の行動について

- ・ 出猟状況の変化を免許取得当時と現在を比較すると、免許取得当時から、大型獣類以外の獣類を目的とした出猟する割合は低く、現在では更に減少している（定性的なものであり、厳密に出猟の減少率を求めたものではない）。
- ・ ただし、ノウサギについては、免許取得当時には出猟の目的する割合が高かった。現在でも他種と比較すると高い割合であるが、免許取得当時と比較すると大幅に減少している。
- ・ 回答者の属性が示すとおり、「狩猟免許取得当時」の出猟状況は、回答者数が過半数を超える 1983 年以前の状況を強く反映していると考えられる。
- ・ 出猟しない理由では「その他」する回答では、その内容は「大型獣が主な狩猟対象であり、その他の獣類には手が回らない」という意見が多い。

#### ■ 昨年度の捕獲状況

- ・ 回答者による昨年度の登録狩猟頭数ではノウサギ、タヌキの捕獲数が多い。

## 2. 捕獲数の減少傾向と狩猟者の意向、出猟状況との関係性

狩猟者（狩猟者登録をした者）の数は年々減少しているため、毎年の捕獲効率や出猟状況等、捕獲に係る条件が一定であると仮定すれば、全体の狩猟捕獲数も減少していくことは当然である。

一方、今回調査対象獣について、狩猟登録者一人あたりの捕獲数（以下、単に「一人あたりの捕獲数」という。）の経年変化を見ると、アナグマを除いて、いずれも減少傾向にある（次頁の図）。このことは、対象獣の生息状況の悪化や、狩猟者の出猟の減少等を示唆している可能性がある。

今回調査結果によると、全ての対象獣で、狩猟者の捕獲意欲や出猟状況が、過去と比べて減少していた。即ち、そもそも狩猟者が減少していることに加え、狩猟者が対象獣を捕獲したいと思わなくなり、また、実際に出猟しなくなったことが、対象獣の捕獲数減少に確実に影響していると考えられる。

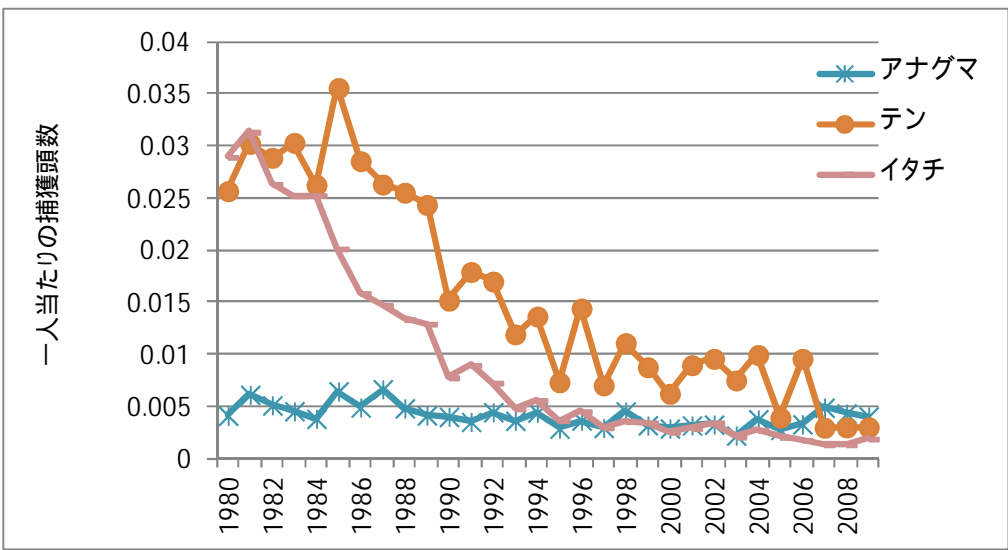
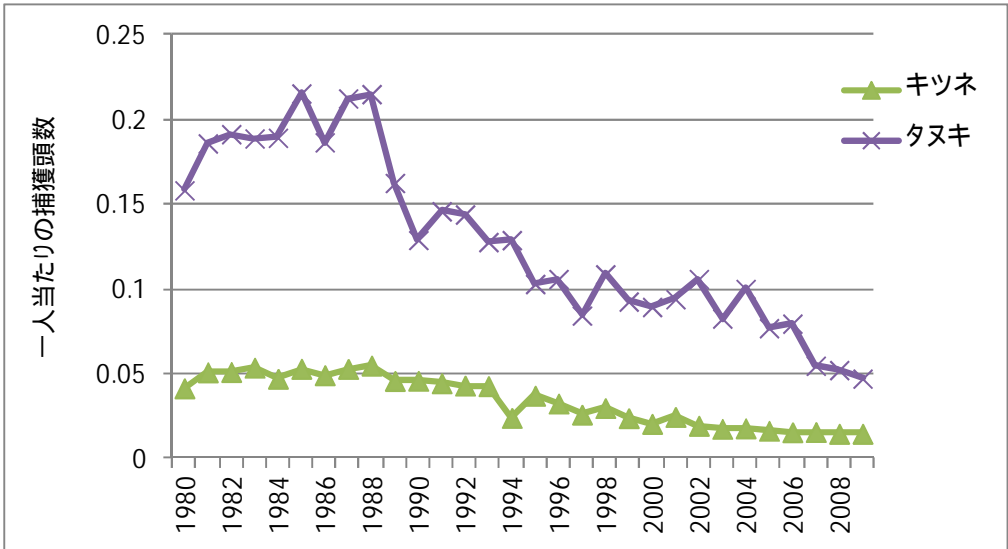
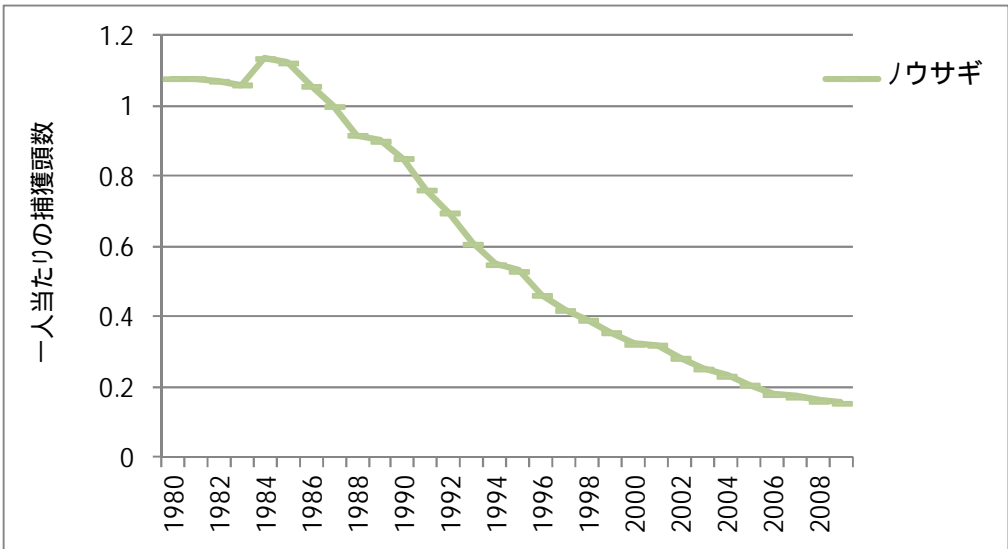
そこで、今回調査で得られた狩猟者の出猟状況の変化と、一人あたりの捕獲数の減少について、関連性を検討した（シマリスは、他のリス類と一括で捕獲数が把握されているため、除外した）。なお、今回調査結果は 1983 年以前の免許取得者の回答を強く反映していると考えられるため、一人あたりの捕獲数についても、1983 年と近年（2009 年）の値を比較した。

- ・ 今回調査結果によると、特にノウサギの出猟状況の減少が顕著であった。一方、アナグマの出猟状況の減少幅は最も小さかった。
- ・ 一人あたりの捕獲数についても、ノウサギの減少幅は大きく、アナグマはほとんど変化がなかった。他の種においても、狩猟者の出猟状況と一人あたりの捕獲数は、相互に関係性があるものと考えられる。
- ・ アナグマ、キツネ、タヌキは、有害鳥獣捕獲が近年増加傾向にあることを踏まえると、狩猟捕獲数の主要な減少要因が生息状況の悪化であるという可能性は小さいと考えられる。
- ・ 一方、ノウサギは、有害鳥獣捕獲数が減少傾向にあり、未だ狩猟資源としての魅力が他種より高いにも関わらず狩猟捕獲数が顕著に減少している。このため、他種よりも、生息状況の悪化が狩猟捕獲数の減少に影響を及ぼしている可能性が示唆される。

狩猟登録者一人当たりの捕獲数と捕獲意欲・出猟状況の変動幅

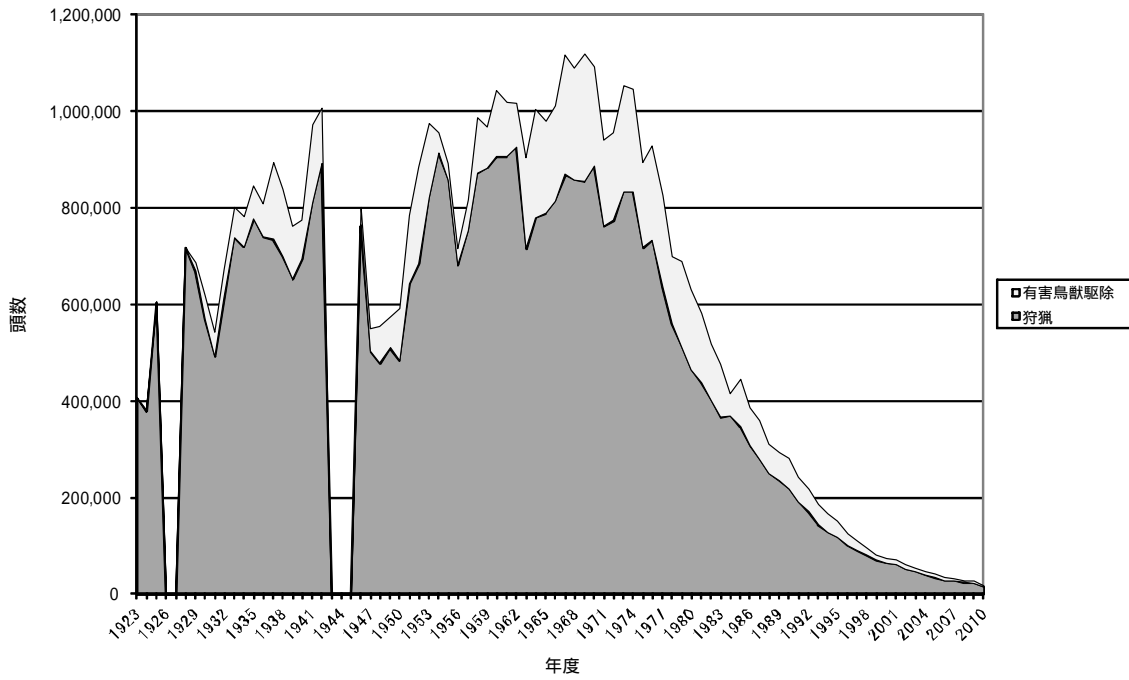
	登録者一人当たりの捕獲数			捕獲意欲	出猟状況
	1983年	2009年	変動幅	変動幅	変動幅
ノウサギ	1.061	0.155	-0.906	-42.0	-32.5
テン	0.030	0.003	-0.027	-27.7	-12.7
イタチ	0.025	0.002	-0.023	-13.4	-7.6
アナグマ	0.005	0.004	0.000	-14.1	-6.4
キツネ	0.054	0.015	-0.039	-19.6	-10.9
タヌキ	0.189	0.047	-0.142	-22.1	-14.1



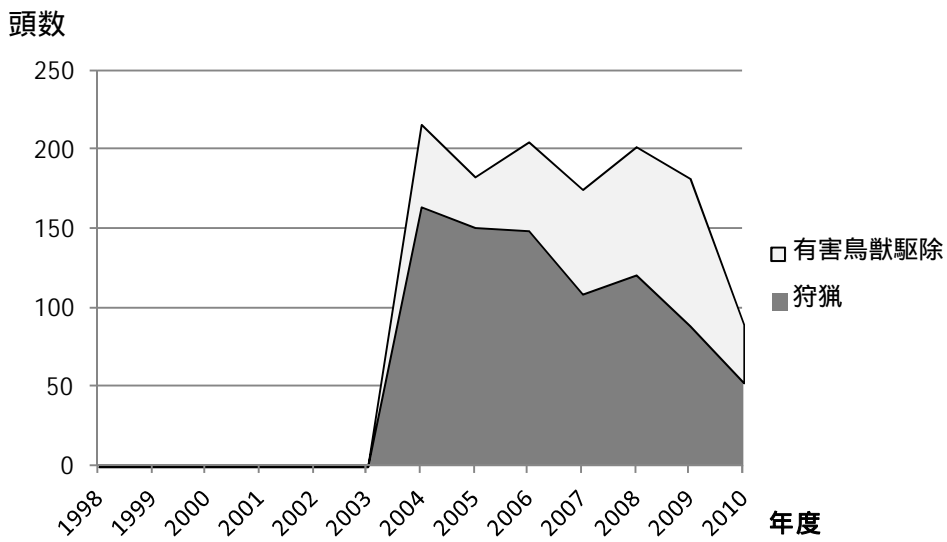


狩猟登録者一人当たりの捕獲頭数の推移

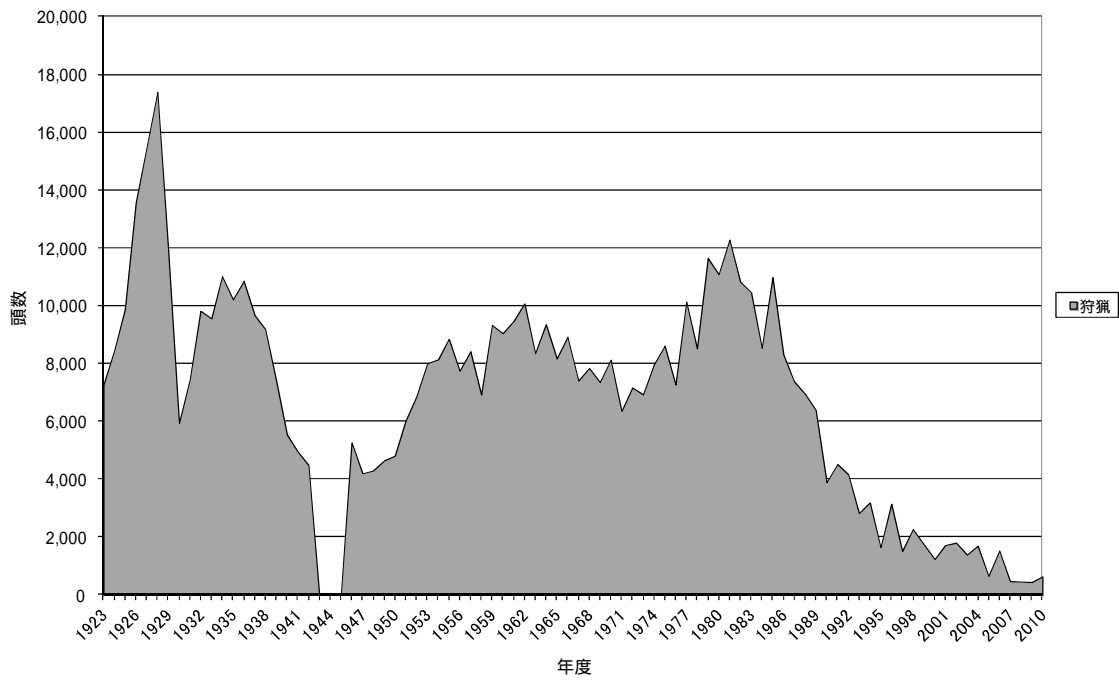
### 狩猟個体数と有害鳥獣捕獲数



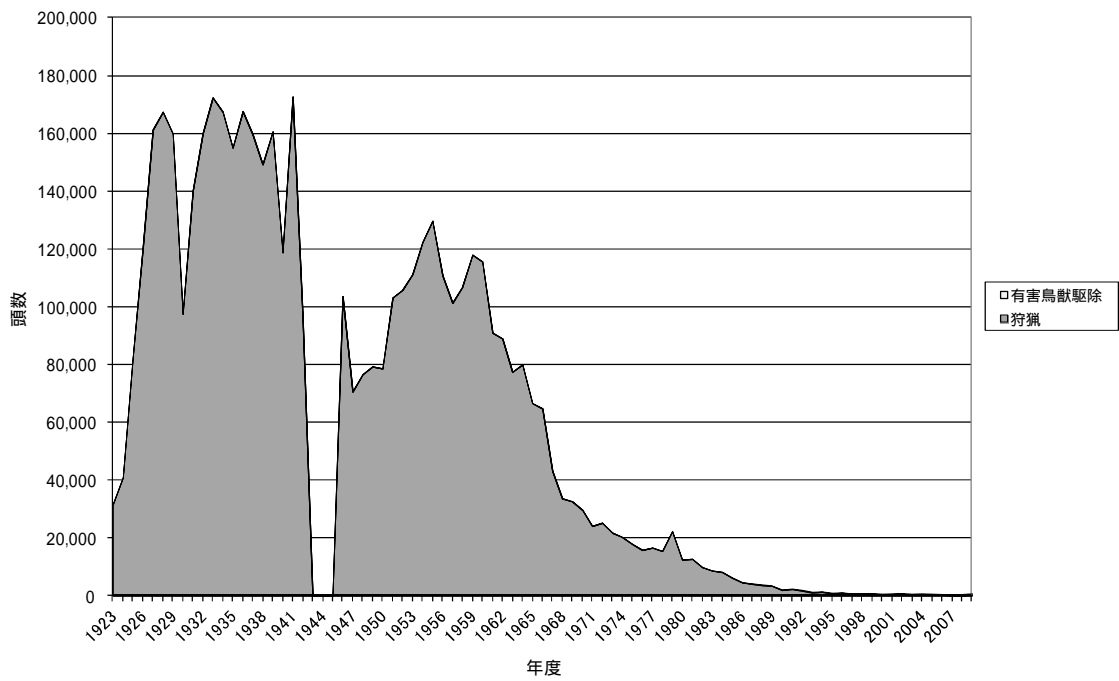
### ノウサギ



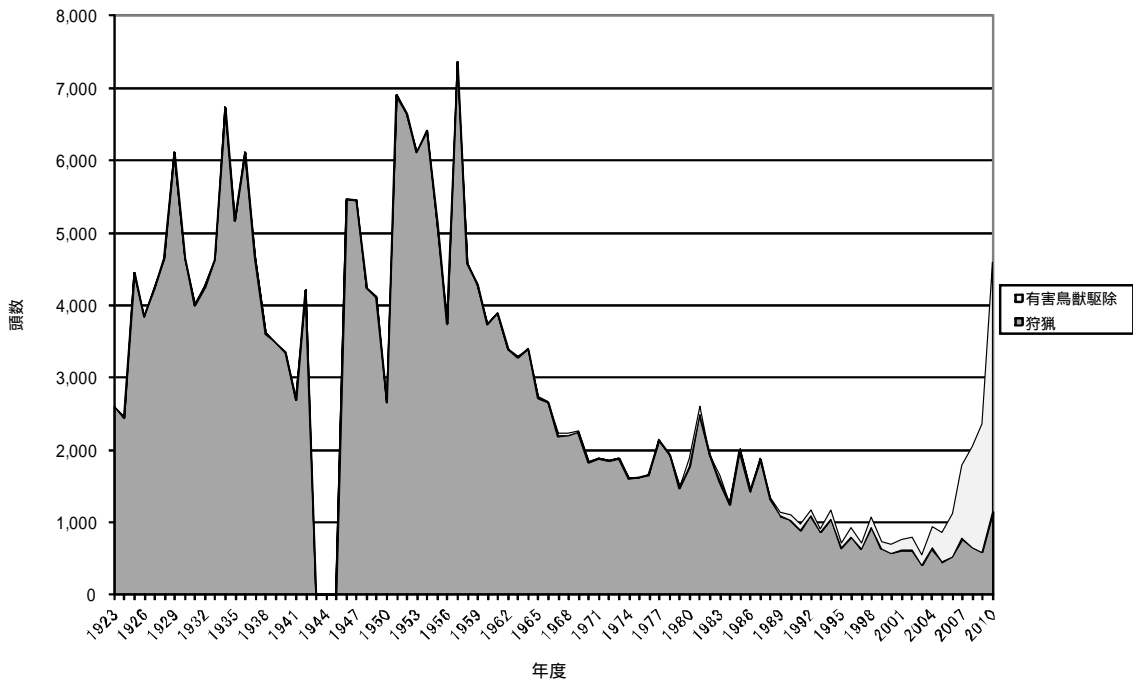
### ユキウサギ



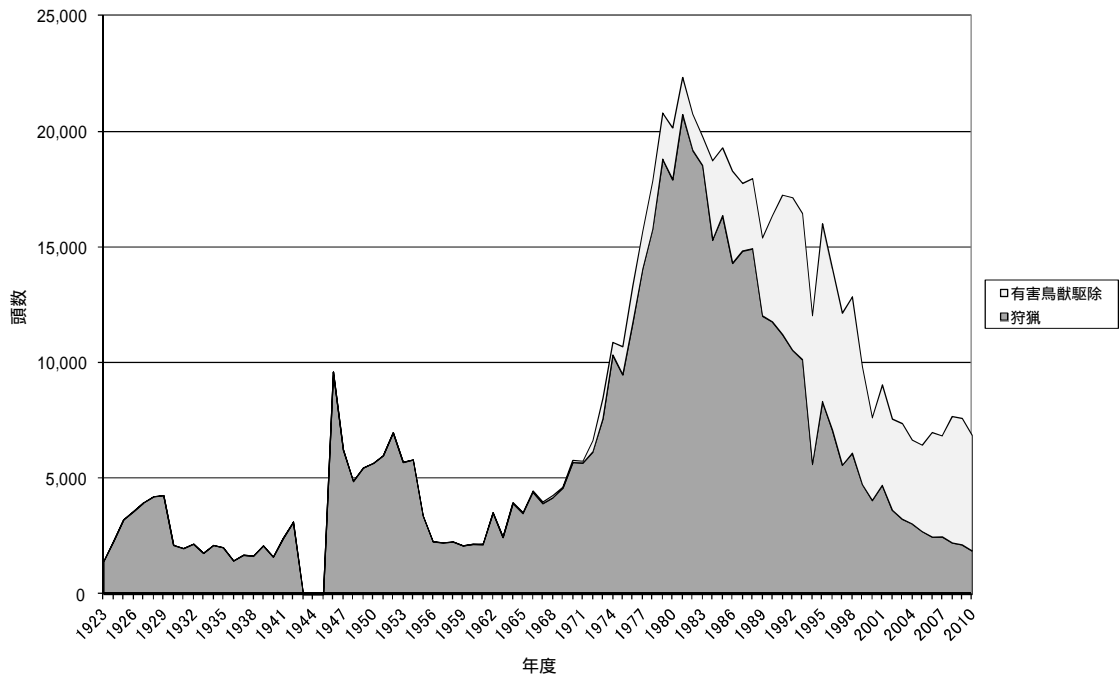
テ ン



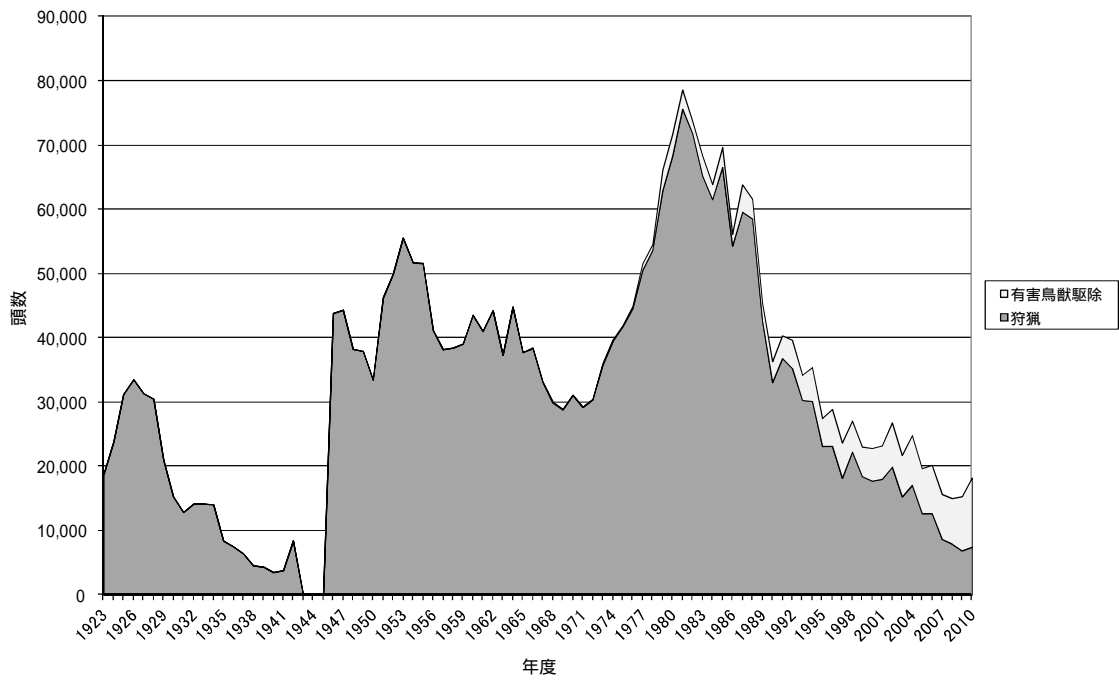
イタチ



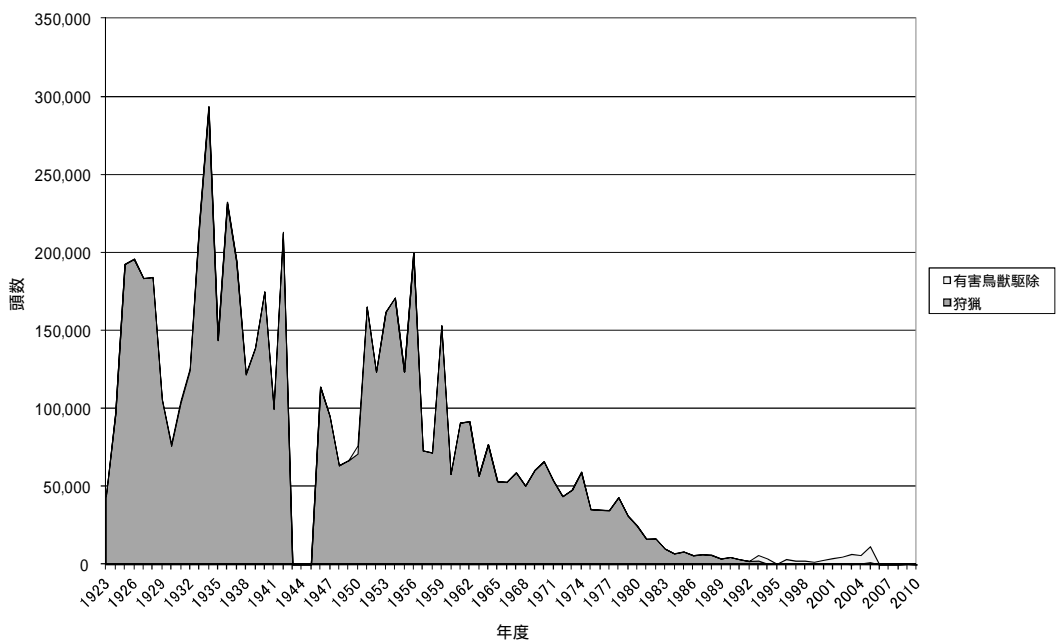
### アナグマ



### キツネ



### タヌキ



### リス類

リス類について

- ・ 1993 年度まではニホンリスとシマリスが含まれる
- ・ 1996 年以降は台湾リスとシマリスが含まれる